

令和元年度

教育委員会の事務執行に関する評価

(平成30年度対象)

令和元年8月28日

みやこ町教育委員会

目次

みやこ町教育委員会の自己点検・評価

I	教育委員会の活動	3
II	教育委員会が管理・執行する事務	6
III	教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	9
1	学校教育における学習環境の充実	10
2	生涯学習のための環境整備	36
3	図書館の整備・充実	47
4	遺跡・文化財・博物館の整備・活用	53
5	文化芸術振興活動の推進	65
6	スポーツ・レクリエーションの推進	69
	外部評価委員会の所見	82

教育委員会の事務執行に関する評価の概要

1. 教育委員会の事務の点検・評価制度について

平成 20 年 4 月から施行された『地方教育行政の組織および運営に関する法律』の一部改正により、教育委員会は、毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理および執行の状況について、自己点検および評価を行い、報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。

みやこ町教育委員会では、地域の教育課題や教育ニーズに応じた基本的な教育の方針・計画を策定し、これらに基づいて実施した政策について、その必要性、効率性等の観点から自ら点検・評価・公表することは、町民に対する説明責任を果たすことにより、町民の信頼を高め、開かれた教育行政を推進していく上で非常に重要なことであると考えております。

このことを踏まえて、平成 30 年度の教育委員会活動を

- I 「教育委員会の活動」
- II 「教育委員会が管理・執行する事務」
- III 「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」

の 3 点から、教育委員会自らがその進捗状況・達成状況等について、点検・評価を実施し、報告書を作成しました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

評価判断基準		
A 達成できた	B おおむね達成できた	C 達成できなかった

みやこ町教育委員会の自己点検・評価

I 教育委員会の活動

※平成30年度の評価を下段()で記入しています。

評価項目	指標	評価	点検・評価	外部評価
(1) 教育委員会の会議の運営改善	①教育委員会会議の開催回数	A (A)	○定例会を11回、臨時会を4回実施した。	
	②教育委員会会議の運営上の工夫	A (A)	○教育委員会の会議における案件については、事務局により提案し、学校教育課長、学校教育課長補佐(学校給食センター)及び生涯学習課長が説明をし、詳細については、それぞれの係長が補足説明を行っている。	
(2) 教育委員会会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	①教育委員会会議の傍聴者の状況	B (B)	○傍聴者0名 ホームページに掲載日時を掲載し、傍聴を促している。	協議内容によっては防災無線等で傍聴案内も検討してはどうか。
	②議事録の公開、広報・公聴活動の状況	A (B)	○議事録は、情報公開条例に基づいて公表するようにしている。 ○教育委員会議事録をホームページに掲載し公表している。	町の広報誌を活用して、町民への公開・広報・周知を図っていく。

<p>(3) 教育委員の自己研鑽</p>	<p>① 研修会への参加状況</p>	<p>A (A)</p>	<p>○県内で開催された教育委員を対象とした研修会に参加した。 ・ 県市町村教育委員会女性教育委員研修会 5/15、8/2 ・ 県市町村教育委員会教育委員研修会 11/9 ○京築地区で開催された教育委員対象の研修会に参加した。 ・ 京築地区市町村教育委員会教育委員研修会 11/15 ○大阪府で開催された市町村教育委員会研究協議会（第2ブロック）に参加した。11/21, 22</p>	<p>具体的な日時が示され、参加状況の信憑性が高まっていることは評価できる。 必要に応じて研修内容を簡単にまとめて、町民に報告することも検討してはどうか</p>
<p>(4) 学校及び教育施設に対する支援・条件整備</p>	<p>①学校訪問</p>	<p>A (A)</p>	<p>○7月4日に節丸小、豊津中、給食センターを訪問した。 ○教育事務所の要請学校訪問が小中連携形式で複数回実施されており、これに併せて教育委員の学校訪問（久保小、豊津小、勝山中）を行った。 ○卒業式、入学式、運動会等学校行事、合唱コンクール、弁論大会に参加した。 ○学校の研究発表会（久保小、祓郷小、豊津小）に参加した。</p>	<p>積極的に訪問し、学校の状況を意欲的に把握する姿勢が評価できる。 学校訪問後の指導内容や協議内容等を積極的に公開し、町民へ学校状況の理解を促すことも必要ではないか。 学校訪問の在り方を検討する時期にきているのではないか。学校の主体性が問われているのであれば、学校長のビジョンを問う学校訪問が</p>

				必要になってくる。
	② 所管施設の訪問	A (B)	○各施設で行われる学校行事、生涯学習課行事、体育協会、育成会の行事に積極的に参加し、施設の状況や活用状況を確認した。	生涯学習に係る行事への出席が積極的に行われ、昨年度から改善されていることは評価できる。

II 教育委員会が管理・執行する事務

評価項目	指標	評価	点検・評価	外部評価
(1) 教育行政の運営に関する基本方針を定めること		A (A)	○みやこ町教育施策について、審議を行い、策定し、各学校に配布した。	各学校が基本方針をどのように具現化しているかの評価を実施してはどうか。
(2) 教育委員会規則及び規定を制定し、又は改廃すること。		A (A)	<ul style="list-style-type: none"> ・みやこ町立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について ・みやこ町B&G海洋センター利用規則の一部を改正する規則の制定について ・みやこ町スクールバス運行規則の一部を改正する規則の制定について 	
(3) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること		A (A)	○教育委員会に新年度の主要な予算について報告。	
(4) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関を設置し、又は廃止すること		/	○ 該当なし。	
(5) 県費負担に係る教職員の人事の内申に関すること		A (A)	○管理職人事、人事異動に係る内申を行った。	
(6) 教育委員会の所管に属する各種委員会の委員の任命又は委嘱に関すること		A (A)	<ul style="list-style-type: none"> ○職務の遂行が期待できる適任者の選定に努めた。 ・学校評議員 ・外部評価委員 	町内の人材情報が的確に行われ、適任者の選定が行われていると判断する。 今後、学校と地域をむすぶ人材

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校医・学校歯科医・学校薬剤師 ・学校 ICT 教育推進委員 ・みやこ町通学路安全対策推進協議会委員 ・みやこ町学校給食センター運営委員 ・みやこ町学校給食物資選定委員 ・みやこ町学校給食献立委員 ・みやこ町社会教育委員 ・みやこ町公民館運営審議会委員 ・みやこ町歴史民俗博物館運営委員 ・みやこ町歴史民俗博物館専門委員 ・みやこ町文化財保護委員 ・みやこ町スポーツ推進委員 ・みやこ町スポーツ推進審議会委員 ・みやこ町図書館協議会委員 ・みやこ町子ども読書活動推進協議会委員 	<p>(コーディネーター) 発掘と育成が必要となってくるのではないかと。</p>
--	---	--

<p>(7) 教科用図書採択の決定に関する事</p>	<p>A (A)</p>	<p>○平成31年度中学校で使用する教科用図書【道徳】について採択した。 ○平成31年度小学校の一部特別支援学級で使用する教科用図書について採択した。</p>	<p>今後、小学校及び中学校で使用する教科用図書の採択が行われる。選定作業の公開を視野に入れた採択を実施することを期待したい。</p>
<p>(8) 通学区域を設定し、又は変更すること</p>	<p>/</p>	<p>○該当なし。</p>	
<p>(9) 文化財を指定し、又は指定を解除すること</p>	<p>/</p>	<p>○該当なし。</p>	
<p>(10) 請願、陳情、訴訟及び異議の申立てに関する事</p>	<p>/</p>	<p>○該当なし</p>	

Ⅲ 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

子どもたちが、ふるさとで学び、育ちそして大人になった時ふるさと・みやこ町への愛着と誇りとともに、平和を愛する気持ちを持ち続けることが大切だと考えます。

そのため、生命を大切に作る心を育てる教育の推進、「みやこ」ならではの文化を活かした活動や、学力の充実・向上家庭の子育て支援などにより、次世代を担う子供を育てていきます。

また、生涯学習の推進に当たっては、住民一人一人のさまざまなニーズに応じて、住民が主体的に、“いつでも・どこでも・だれでも・なんでも” 学ぶことができる学習の場づくりや情報提供を行います。

さらに、地域に伝わる歴史や伝統文化を継承し、活用するとともに、住民の主体的な文化・芸術活動を支援し、文化の薫り高いまちづくりに努めます。

※ 評価項目は、「みやこ町第2次総合計画」の基本計画に示された主要事業及び教育委員会で策定した「平成29年度みやこ町教育施策リーフレット」の主要事業をもとに作成しています。

有効性	効率性	達成度	総合評価
事業が目標達成に有効であるかを評価する。	事業が効率的に実施できたかを評価する。	計画通り達成しているかを評価する。	<u>3つの評価項目を勘案し、総合的に評価を行う。</u>
評価判断基準			
A 有効である	A 実施できている	A 期待を上回る	A 達成できた
B おおむね有効である	B おおむね実施できている	B おおむね期待どおり	B おおむね達成できた
C あまり有効でない	C 実施できていない	C 期待を下回る	C 達成できなかった

1 学校教育における学習環境の充実

○施策の方針

「自分のよさに気付き、なりたい自分を見つけ、志を持って成長していく子ども」を育てるため、小中連携教育を推進します。また、国際理解教育の一環として英語教育の充実に努めます。今後の複雑化・多様化する教育的ニーズにこたえる教育環境の充実に努めるとともに、学校施設の再編整備・充実に努め、チームとしての学校体制の整備に努めます。また、子どもの成長を見守る環境を作り、子どもの安全確保に努めます。学校給食については、関係機関との連携の下、地場農産物の利用を進め、子どもの健康を守る取組を推進します。

※平成30年度の評価を下段（）で記入しています。

主要 施策	主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
				有効性	効率性	達成度	総合評価	
子どもの 教育環境の 充実	チームとしての学校づくり	心理や福祉など多様な専門家の配置の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○町雇用でスクールソーシャルワーカーを雇用（週1日）し、必要な学校の児童・生徒、保護者の対応を行った。 ○教育相談員1名を配置し、毎日学校を巡回指導し、指導に関する助言を行うとともに関係機関との連携を行った。 ○スクールアドバイザーを町予算で確保し、児童・生徒・保護者等の教育相談に活用した。 ○合理的配慮アドバイザーを町予算で雇用し、各小中学 	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	<p>教育課題解決のための専門家配置は成果が上がっており、評価できる。</p> <p>今後一層重要な事業なので、引き続き継続し、充実してもらいたい。</p>

		<p>校での通級指導教室での児童・生徒や教師への指導を行った。</p> <p>○特別に支援を要する児童生徒に対する合理的配慮を行うため、発達検査を実施した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○多様化した児童・生徒への対応が出来ており、今後も継続して行きたい。</p>					<p>発達検査を実施した後の一人一人に応じたカリキュラムの作成が適切に行われていることを評価したい。</p>
	関係機関との連携強化	<p>○行橋市適応指導教室と連携を図り、不登校生徒4名（継続的利用2名、一時的利用2名）の支援を行った。</p> <p>○みやこ町要保護児童対策地域協議会での情報交換の会議に、年間6回担当指導主事・教育相談員・SSWが参加し連携が充実した。</p> <p>○京築児童相談所や行橋警察署、京築保健福祉環境事務所家庭児童相談員等との連携が充実した。</p> <p>○特別支援学校・みやこ町療</p>	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	<p>学校だけでは解決困難な事案も多くなるので、今後も継続したより一層の連携強化を期待したい。</p>

			<p>育施設、社会福祉協議会等との連携を図った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○関係機関との連携は充実してきている。学校のみで解決困難な事案は多くあり、今後も継続した連携の強化が必要である。</p>					
		家庭・地域との連携強化	<p>○家庭向けリーフレット「STOPスマホ」を全保護者へ配付し、家庭での生活習慣の乱れを抑止するため、啓発を行った。</p> <p>○家庭と連携して、中学校の定期テストの期間を中心に「Noテレビ・Noゲーム」を実施し、生活習慣や学習習慣の確立を図った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○課題は全家庭の協力を得ることである。今後も啓発を継続し、家庭・地域との連携強化に努めたい。</p>	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	<p>首長部局やPTA連合会とも連携した取組の拡大と共に適切に評価、公開をすることも大切だと思われる。</p>

	<p>9年間を見通した教育の充実</p>	<p>小中連携教育の推進</p>	<p>○26年度から28年度「小中一貫教育指定校事業」、29年度から「小中連携教育指定校事業」に移行し、町内3地区小中学校及び小学校間の共通した取組が定着した。</p> <p>【共通した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中教職員合同研修会 ・小中学生合同地域清掃活動 ・中学文化祭の小中合同合唱 ・小学校へ中学教師出前授業 ・小学校間の学習・生徒指導の共通した取組 ・授業規律の共通した取組 ・生徒指導の共通した取組 <p>○年2回、教職員対象の小中一貫教育に関する研修会を実施して、各校区の具体的な取組の小中学校での確認や町内3地区の交流を行い取組の充実を図った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○町内3地区の小中学校や小小間の取組が充実してき</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (B)</p>	<p>A (A)</p>	<p>小中連携教育の推進は重要な施策であり、計画的に進められていることや年2回の教職員対象研修会の実施は評価できる。</p> <p>中一ギャップ解消のためにも積極的に小中の人事交流を推進してはどうか。</p> <p>小学校への中学校教師による出前事業の実施は評価できる。今後は中学校へ小学校教師の出前事業の実施と共に、出前事業の成果や効果を明らかにすることが期待される。</p>
--	----------------------	------------------	---	------------------	------------------	------------------	------------------	---

			た。校区の組織が充実したので、今後は3地区の独自性のある主体的な取組を発展させていきたい。					
		基礎学力向上に向けた教育活動の充実	<p>○福岡県学力アップ推進事業との連携を図り、みやこ町学力検証委員会の活性化を図った。</p> <p>○陰山メソッドを導入し、基礎基本の定着と集中力の育成を行う。</p> <p>○みやこ町予算で小学校1年生から6年生に算数ドリル「さんすうまるごとスキル」を配布する学力向上ドリル事業を実施する。</p> <p>○教員の指導力向上を図る目的で、みやこ町教育委員会主催研修会を実施している。</p> <p>○児童生徒に対するきめ細かな指導を実施するため、以下のようなみやこ町雇用教員の配置を行っている。</p> <p>・35人学級実施のための非常</p>	A (A)	A (A)	B (B)	B (B)	<p>継続的な取組が必要。また、きめ細かな指導体制には町雇用の講師採用が有効と思われる。</p> <p>町独自の学力向上ドリルの配付・活用は評価できる。</p> <p>町雇用教員の質を確保するといった点から</p>

		<p>勤講師（小学校 3 名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複式学級対応のための非常勤講師（小学校 5 名） ・中学校国語・数学・英語の学習支援に係る非常勤講師（週 12 時間 3 名を 3 校分） ・生徒指導支援のための非常勤講師（小中学校 1 名） <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○家庭との連携の充実を図った家庭学習の定着を図る。</p>					も、町独自の講師対象研修会の開催や県研修機関（県教育センター等）への参加等を積極的に推進してはどうか。
	心の教育や体力向上の取組の充実	<p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を各学校に情報を提供した。</p> <p>○体力向上プランを通して体力向上を図る「1 校 1 取組」を充実した。</p> <p>○福岡県スポーツコンテスト「スポコン広場」みんなでダンスへ中学校 1 校 2 チームが参加し、1 チームが優秀賞を受賞した。</p> <p>○児童生徒の豊かな心の育成に向けた体験的活動の推進と教科「道徳」の小中学校</p>	A (A)	B (A)	A (A)	A (A)	地域でスポーツ大会が参加できる機会を増やすことはできないのか。各学校が道徳の授業を保護者に公開し、取り組み内容を知らせることは重要である。

			<p>の展開の概要を作成した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○体力向上では、「1校1取組」運動を全小中学校で実施し取組が充実している。</p> <p>「スポコン広場」への参加校が限定されており、参加校を広げる必要がある。</p> <p>○教科「道徳」を全小中学校で充実させる。</p>					
時代を担う 人材育成の ための教育 の充実	国際理解教育・英 語教育の推進	<p>○これからの英語教育の流れは英語4技能化が本流になる。そこで、本年度から中学1・2年生を対象に英語4技能検定「GTEC」を実施した。この成果は、教育委員会と学校が、「GTEC」検定の結果分析を踏まえた英語科の授業改善に共通理解して取り組むことができたことである。</p> <p>○外国語指導助手(ALT)を小中学校に派遣した。特に中学校では、ALTは英語4技能化のための学習指導の工夫</p>	A (A)	A (A)	A (B)	A (A)	<p>今後英語教育は益々重要になると思われるので、取組を一層強化すると共に十分な予算措置を講じる必要がある。</p> <p>国際交流事業を含め英語教育の推進を望む</p> <p>児童生徒の英語活動や会話力を高めるためにも、ALTの確保と積極的</p>	

			<p>を行った。派遣人数は小学校2名、中学校1名である。(派遣時数：小学校1440時間、中学校504時間)</p> <p>○小学校英語教育推進のために、英語活動学習発表会を実施した。今年度は勝山・豊津地区の6小学校が英語劇を発表した。</p> <p>○中学生の英語力向上のためにみやこ町中学生スピーチ大会を開催した。(課題部門11名、自作部門8名)</p> <p>本大会で選ばれた優秀賞の生徒は京築大会において上位3名に入り、京築代表として県大会に出場した。</p> <p>○中学3年生対象の悉皆調査「福岡県中学生英検 IBA テスト」の結果、みやこ町全体の平均スコアは715.2ポイントと高い。(県：711.4 京築：701.9)</p> <p>英検3級以上の生徒の割合も41.2%と高い。</p>					<p>な派遣及びスピーチ大会などの表現する機会や場の確保は、今後も継続していきたい。</p>
--	--	--	--	--	--	--	--	--

			(県:38.2%、京築:34.7%) ≪課題・今後の方向性≫ ○今後も更に取組を推進・発展させ、英語に興味・関心のある児童生徒を増やしたい。					
	キャリア教育の推進	○小・中学校のキャリア教育の推進を図った。 ・中学校全校で職場体験学習の実施 ・小学校では、職場体験的学習の実施 ≪課題・今後の方向性≫ ○各学校で計画的な実施がなされているが、さらに活性化を図る必要がある。	B (B)	B (B)	B (B)	B (B)	町内統一カリキュラム作成を検討してはどうか。	
	郷土を愛する心を育てる教育の充実	○地域との連携による「地域のよさ」の発見を目的とした学習の実施が進んでいる。 ・小学校高学年による全小学校の議会傍聴の実施 ・歴史民俗博物館、みやこ町文化遺産、史跡見学の実施 ・伊良原ダム見学の実施	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	町内には素晴らしい文化遺産や史跡等があり、郷土愛や誇りを育てる上でそれらを教材化し、郷土のよさや素晴らしさを発表する機会や場を設けてはどうか。	

		<ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教科 道徳」の実施により、郷土の伝統と文化を大切にする心の教育に充実を図る。 <p>《課題・今後の方向性》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各校区の特色を学ぶ学習が創意工夫されている。今後さらに、道徳教育との関連も図りながら「郷土を愛する心」の指導の充実を図る必要がある。 					
多様な教育ニーズにこたえる教育の推進	特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の実態や状況に応じた特別支援学級の設置による特別支援教育の充実を図っている。 ○通常の学級に在籍する特別に支援を要する児童生徒の指導に向けた「通級による指導」を実施している。 ○通級による指導の充実を図るため、みやこ町雇用合理的配慮アドバイザー及び合理的配慮協力員を配置した。 ○適性就学に向けたきめ細か 	A (A)	B (A)	A (B)	A (A)	<p>特別な支援を必要とする児童生徒が増えることが見込まれるので、教員の指導力向上とアドバイザーの増員が求められる。</p> <p>特別支援学級担任の専門性の向上の一つとして、積極的に特別支援教育免許の取得を奨励する必要がある。大学</p>

		<p>な教育相談を実施している。</p> <p>○築城特別支援学校と連携した「障がいのある児童生徒の居住地校交流」を実施した。</p> <p>○みやこ町特別支援教育研修会を年2回実施した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○障がいのある児童生徒の合理的配慮は今後さらに充実を図る必要がある。</p> <p>○児童生徒の教育相談の充実と、家庭・学校が情報共有を図るシステムづくりが必要である。</p>					<p>や県教育センターで実施している短期間の免許取得コース講座（知的・病弱者・肢体不自由者）へ意図的・計画的な応募を期待したい。</p>
	不登校児童・生徒への支援の充実	<p>○行橋市適応指導教室と連携を図り、不登校児童・生徒3名の支援を行った。</p> <p>○町雇用のスクールソーシャルワーカーやスクールアドバイザーを児童・生徒・保護者等の教育相談に活用した。</p> <p>○不登校の児童生徒数や状況</p>	A (A)	B (A)	B (B)	B (B)	<p>SSW や SC の配置が計画的に実施され、その効果も上がっていることを評価したい。</p> <p>今後は校内適応指導教室の設置を計画的に実施するなど、小学校段階からの早期の対応が望まれる。</p>

			<p>を把握し、学校に情報を伝えるとともに、「マンツーマン対応」や「福岡アクション3」の実施を充実した。</p> <p>○不登校から取り組みにより5名が解消・復帰した。</p> <p>○H29年度より不登校の児童生徒数が13名減少した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○関係機関及び医療機関との連携が進んでいる。</p> <p>○長欠の児童生徒の内、70日欠席の約半数を占めており対応等の充実を図る必要性がある。</p> <p>○小学校段階での、長期欠席の中で、病気・その他の理由が半数以上であり、対応の充実を図る必要性がある。</p>					
安全、安心な給食の配食	衛生管理の徹底と安全、安心な給食の配食	<p>○調理員を対象に衛生研修会を年3回実施した。</p> <p>○配膳業務担当者を対象に衛生研修会を4月に実施した。</p> <p>○作業マニュアルに沿った作</p>	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	引き続き、食の安全管理を十分に行ってもらいたい。	

		<p>業を行い、随時見直しをすることで、衛生管理の徹底と調理技術の向上を図っている。</p> <p>○町内の全小中学校に、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく食べられるように二重食缶を使用して配食した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○今後も衛生面に注意し、おいしい学校給食を提供していく。</p>					
	地場産農産物の利用促進	<p>○地場産農作物の利用促進を図るために関係機関との連携を深め、学校給食小委員会で毎月会議を開催し「生育状況」や「出荷時期」の情報交換を行い「みやこ町産野菜」の使用に努めた。</p> <p>○毎月19日は「食育の日」にちなみ、地場産野菜・果物を取り入れた学校給食を配食するとともに、献立表にも地場産野菜を紹介し保護</p>	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	<p>栄養教諭の個人差や学校間格差がないように共通献立による作成は評価できる。</p>

			<p>者に啓発を行っている。また、毎日、給食の写真とその日の地場産物をフェイスブックで紹介している。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○今後も地場産農産物の使用を推進していく。</p>					
		食育の推進	<p>○3校の児童に対して、学校給食センターでの調理作業の見学会を実施した。また、ジャイカから外国人研修生の視察を受け入れ、「食育の説明」「施設の説明」「試食」を行う事で食育の推進に努めた。</p> <p>○「給食カレンダー」を毎週発行し、毎日の献立内容について知らせたいポイントを掲載することで食育の推進が図れた。</p> <p>○みやこ町の全小学校に対し、栄養教諭が学校訪問を行い、「バランスのよい食べ方」をテーマに食べ物は大切な働きがあり、嫌いな</p>	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	全小学校の一年生保護

			<p>物も工夫して食べるように意識付けを行った。</p> <p>○平成 30 年 9 月に「学校給食交流試食会実施要領」を作成して学校へ希望を募り、保護者の方に栄養教諭が給食の説明や試食体験をしてもらうことで学校給食に対する理解（学校給食の意義や食の大切さ）を深めた。</p> <p>(実施校)</p> <p>H30.10.26 黒田小学校 H30.11. 1 豊津小学校 H31. 1.25 城井小学校</p> <p>○小・中学校長代表、小・中学校のPTA代表、小・中学校給食担当教諭、学校給食センター職員で構成する献立委員会を 10 回開催し、「旬の食材を使った献立」、「各県の郷土料理」、「各国の料理」を説明することで連携した取組ができた。</p>					<p>者を対象にした給食試食会や説明会を実施し、家庭と連携した食育を推進してはどうか。</p>
--	--	--	---	--	--	--	--	---

			<p>○小学校に入学する新1年生の保護者に「学校給食について」（学校給食の目標、栄養管理、使用食材等）の便りを配付し家庭へ周知ができた。</p> <p>○平成25年6月から毎日の給食内容をフェイスブックに投稿し、保護者に子供がどんな給食を食べているか確認できるようにしている。保護者から、「美味しい給食ありがとうございます。」「今日は喜んで食べる事でしょう」「今日は苦手なものに苦戦しているでしょう」などのコメントが寄せられた。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○今後も栄養教諭による学校訪問を計画的に実施するとともに、給食の内容等が適切であるか検討していく。</p>				
--	--	--	--	--	--	--	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">子どもの健康を守る取組の推進</p>	<p>食物アレルギーをもつ児童生徒への適切な対応</p>	<p>食物アレルギー対応</p>	<p>○「みやこ町食物アレルギー対応マニュアル」を活用して、食物アレルギーをもつ児童生徒が、「安心・安全」な学校生活を送ることができるように努めた。</p> <p>○学校との情報交換会を学期毎に開催し、食物アレルギーをもつ児童生徒の状況等について情報を共有し、学校と連携することで食物アレルギー事故の防止に努めた。</p> <p>○食物アレルギー児童・生徒への対応の在り方について、教職員対象研修会を開催した。食物アレルギーの症状やアナフィラキシーショックの応急処置に使うエピペンの使用方法、学校と保護者間の連携体制等の理解が深まった。</p> <p>(日時：8月2日 講師：独立行政法人国立病院機構 小倉医療センター小児科 綿貫啓介先生)</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	
---	------------------------------	------------------	--	------------------	------------------	------------------	------------------	--

			<p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○食物アレルギーをもつ児童生徒へ適切な対応が図られるように、さらに学校との連携や情報の共有を図っていく必要がある。</p>					
<p>学校施設の整備・充実</p>	<p>統廃合を含む学校再編整備についての検討と、学校再編の推進</p>	<p>○犀川地区統合校建設事業を着手し、平成 32 年 4 月開校をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設工事の着手。 ・4 小学校の閉校に向けての取組み、新小学校の開校に向けての取組みを実施。 <p>○豊津地区統合校建設事業を着手し、平成 34 年 4 月開校をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本設計の実施。 <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○犀川地区の建設工事、旧校舎解体工事、外構工事、豊津地区の実施設計を実施し、勝山地区及び中学校 3 校の再編整備事業を検討し、統廃合を推進する。</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>「地域の中にある学校」「地域と共にある学校」づくりのためには、保護者や地域の理解が不可欠であるこれからの学校在り方を踏まえた新小学校の整備計画や開校理念を周知する必要はないのか。</p>	

	<p>I C T¹教育推進のため電子黒板等の機器の整備の推進</p>	<p>○デジタル教科書活用研究指定事業（小学校）及び電子黒板活用研究指定事業（中学校）を実施し、電子黒板、タブレット等の機器を貸与して、ICT 機器を活用した授業に取り組んでいる。（小学校 34 人、中学校 7 人）</p> <p>○デジタル教科書や電子黒板を活用した公開授業を、貸与者が年間 1 回の公開授業と研究協議会を行った。（小学校 34 人、中学校 7 人）</p> <p>○ICT 機器の活用充実のための 2 回の研修会を実施した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○みやこ町の事業として、機器の貸与や公開事業、研修会の実施により、ICT を活用した授業は充実してきている。</p> <p>今後、事業の充実を図り授業のレベル向上を図りた</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>ハード面と共ソフト面の教材教具の充実を図ってほしい。</p>
--	---	--	------------------	------------------	------------------	------------------	-----------------------------------

¹ ICT…情報処理及び情報通信、コンピュータやネットワークに関連する諸分野における技術・産業・設備・サービスなどの総称のこと。

		い。					
	特別支援教育など多様な教育活動 に対応できる環境整備	<p>○特別支援学級及び通級による指導に対して、障害の状況に応じた教材・教具の配置を行った。</p> <p>○巡回による通級指導に係る町雇用「合理的配慮協力員」を配置した。</p> <p>○新1年生の適性就学に向けて、新一年生及び保護者を対象とした就学相談を実施した。</p> <p><課題・今後の方向性></p> <p>○平成29年度より開始した中学校の巡回による通級指導の充実を図る。</p> <p>○教育環境を充実するために、教室の整備に取り組む。</p>	A (A)	B (A)	B (B)	A (A)	今後も教育的ニーズに応じた教育活動が実施できるように、確実に環境整備を継続することを期待したい。
児童・生徒の安全確保	通学路の安全確保	<p>○小・中学校から通学路における危険箇所対策一覧表を提出していただき、「みやこ町通学路安全推進協議会」において協議を行った。</p> <p>30年度協議件数 25件</p>	A (A)	A (A)	B (B)	B (A)	屏の耐震改修の実施を評価してはどうか。安全確保に努力していることが窺え、評価できる。

		<p>30年度中対策実施済 0件 (本年度については、水害のため、改良補修は未実施。)</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○30年度未実施分を31年度早急に実施する。</p> <p>○関係機関との連携強化を図りながら、今後も継続して危険箇所の改良に努めたい。</p>					
	<p>安全見守り活動の充実</p>	<p>○スクールガードリーダーを各地区（旧町単位）1名の計3名を配置し、登下校時における児童・生徒の安全確保に努めた。また、不審者情報等あった場合は、スクールガードリーダーに連絡し、注意をしながら見守りを行うよう徹底させた。</p> <p>・子ども110番の家 登録数 407件</p> <p>・安全見守り隊 登録数 88件</p> <p>《課題・今後の方向性》</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	

		○スクールガードリーダーがより役割を果たせるように関係機関との連携強化を図る。																									
	スクールバスの適切な活用	<p>○事務の効率化や関係機関との連携を密にすることで、安全でスムーズなスクールバスの運行を行うとともに通学区の見直しも検討する。</p> <p>・30年度スクールバス利用者数</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>犀川小学校</td><td>22名</td></tr> <tr><td>柳瀬小学校</td><td>5名</td></tr> <tr><td>のびのび幼稚園</td><td>7名</td></tr> <tr><td>犀川中学校</td><td>1名</td></tr> <tr><td>伊良原小・中学校</td><td>25名</td></tr> <tr><td>計</td><td>60名</td></tr> </table> <p>・部活動の利用状況</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>勝山中学校</td><td>82件</td></tr> <tr><td>豊津中学校</td><td>51件</td></tr> <tr><td>犀川中学校</td><td>60件</td></tr> <tr><td>計</td><td>193件</td></tr> </table> <p>≪課題・今後の方向性≫</p>	犀川小学校	22名	柳瀬小学校	5名	のびのび幼稚園	7名	犀川中学校	1名	伊良原小・中学校	25名	計	60名	勝山中学校	82件	豊津中学校	51件	犀川中学校	60件	計	193件	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	必要不可欠な事業であるため評価できるが、安全点検を確実に実施し、危機管理意識をもって確実に実施することを期待している。
犀川小学校	22名																										
柳瀬小学校	5名																										
のびのび幼稚園	7名																										
犀川中学校	1名																										
伊良原小・中学校	25名																										
計	60名																										
勝山中学校	82件																										
豊津中学校	51件																										
犀川中学校	60件																										
計	193件																										

		○犀川地区の学校再編に向けて、通学手段を確保し、安心安全に通学するためにスクールバスを平成31年度に2台購入し、犀川地区5台、伊良原地区2台で運行を行う。					
家庭教育力の向上	親子での体験活動や保護者が自ら学習する場づくりへの取組	<p>○家庭教育力の向上を図るため、家庭教育支援総合推進事業により、保護者を対象とした講演会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊津小学校：参加者 162名 ・犀川小学校：参加者 118名 ・諫山小学校：参加者 19名 ・犀川中学校：参加者 170名 <p>○子ども体験教室を6教室開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニバスケット 参加者：20名（子） ・夏休み♪バスで行こう 参加者：32名（子）11名（親） ・京築バーガーづくり 参加者：13名（子）8名（親） ・親子陶芸 参加者：23名（子）17名（親） 	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	家庭教育支援総合事業を全校に広げ、計画的に推進してはどうか。

		<ul style="list-style-type: none"> ・バードウォッチング 参加者：5名（子）3名（親） ・はじめてのプログラミング 参加者：32名（子） ○凧づくり体験教室 豊前国府跡公園にて開催し、町内外から子ども・保護者併せて約200名の参加があった。 ○親子星空観望会 親子で天体に興味を持たせるために星空観望会を4回実施した。子ども・保護者併せて100名以上の参加があったが、内3回は天候に恵まれずスクリーンでの観測となった。 《課題・今後の方向性》 ○家庭教育支援総合推進事業については、保護者の家庭教育力の向上に一定の効果があり、今後も継続して行きたい。 ○親子での体験活動は、親子の絆を深めるのに一定の効 				
--	--	---	--	--	--	--

		果があり、今後も内容等を精査し継続して行きたい。					
	保護者と連携した学力の向上、規範意識の向上	<p>○「ストップ・スマホ」のリーフレットを作成し、保護者へ配布した。</p> <p>○各学校で学校便りを配布し、生活習慣や規範意識の向上に向けた情報提供を行うよう指導した。</p> <p>○「ノーテレビ・ノーゲーム」「ストップ・スマホ」など、家庭での指導が行いやすいように具体的な取組を行い、各学校の状況を確認した。</p> <p><課題・今後の方向性></p> <p>○実践内容の周知が図られており、保護者の主体的な取り組みに移行する必要がある。</p>	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	保護者が主体者であり、学校は支援者であるという関係をつくりながら、活動の充実を図ってもらいたい。
	発達段階に合わせた連携・教育の推進	○町内10箇所の保育所（園）、幼稚園等で行われる、子育て・健康支援課が実施する巡回相談に出席し、就学前の子どもを観察	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	

		<p>して実態の把握に努めた。</p> <p>○療育教室（たんぽぽ教室）の療育指導者から新就学児童の就学先学校訪問により、就学後のフォローアップを行っていただき継続的な支援・連携を図った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○関係機関と情報の共有を図りながら、連携をより強化して、適正な就学ができるように努める。</p>					
--	--	---	--	--	--	--	--

2 生涯学習のための環境整備

○施策の方針

「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも」学ぶことができる学習機会を提供するため、公民館活動の充実を図るとともに、社会教育委員会議や公民館運営審議会で、本町の生涯学習の在り方について協議します。また、生涯学習活動の充実のため、広報誌等を通じた生涯学習情報提供の充実を図るとともに、各地域の優れた技術や経験を持った人材活用や、社会教育団体などの活動を支援します。

※平成 30 年度の評価を下段 () で記入しています。

主要 施策	主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
				有効性	効率性	達成度	総合評価	
「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも」学ぶことができる学習機会の提供	ライフステージに応じた学習機会の提供	○高齢者大学を次の 5 地区で開催した。 ・勝山たちばな大学（年 11 回開催、申込者 60 名：対前年度 3 名増） ・犀川地区ふれあい大学（年 10 回開催、申込者 108 名：対前年度 18 名減） ・城井地区さわやか大学（年 9 回開催、申込者 58 名：対前年度 6 名増） ・伊良原地区ふれあい大学（年 7 回開催、申込者 60 名：対前年度 5 名減）	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	高齢者の生きがい対策として、事業継続を望む。	

		<ul style="list-style-type: none"> ・豊津平成学級(年 10 回開催、申込者 52 名 : 対前年度 3 名減) ○女性学級を次の 3 地区で開催した。 ・勝山女性学級(年 11 回開催、申込者 41 名 : 対前年度 1 名減) ・犀川女性学級(年 10 回開催、申込者 71 名 : 対前年度 10 名減) ・豊津女性学級(年 10 回開催、申込者 51 名 : 対前年度 17 名減) ○ふれあいスポーツ(年 9 回開催、延べ参加者 178 名 : 対前年度 149 名減)を開催した。 ※台風により 2 回中止 《課題・今後の方向性》 ○高齢者大学や女性学級の合同開講式・合同閉講式等により、連帯感が生まれてきている。しかしながら、1カ所開催による参加者の減 					
--	--	---	--	--	--	--	--

		<p>少傾向が見受けられるため、合同開講式等の開催場所については、引き続き検討していく。</p> <p>今後も、社会教育指導員や地域活動指導員を中心に講座内容の充実を図り、多くの方が参加したくなるような、魅力のある学級運営に努める。</p>					
	<p>自己啓発のためのバランスのとれた各種講座教室の提供</p>	<p>○文化健康講座（23講座を5月～翌年3月開催、登録者数452名：対前年度174名増）、パソコン講座（10講座：前期5講座、後期5講座 延べ登録者数69名：対前年度16名減）を開催した。</p> <p>平成27年度より実施しているパソコン講座受講者相談会を旧3地区で実施した。</p> <p>直接講師と相談し、受講者ニーズにあった講座選択に寄与している。</p> <p>○外国語講座の開催</p> <p>・英語講座（7月～翌年2月</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>文化健康講座を他の課と連携し、ニーズに応じて各地区の施設で開催するように広げてはどうか。</p>

		<p>年 25 回 参加者：16 名)</p> <p>・韓国語講座 (7 月～翌年 1 月年 25 回 参加者：17 名)</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○引き続き、社会教育指導員や地域活動指導員を中心に町民のニーズに合った講座内容の充実を図り、魅力のある講座の開催に努める。</p>					
	<p>公民館活動の活性化と地域住民の学習活動への参画</p>	<p>○公民館まつりの開催</p> <p>子どもも大人も楽しめる内容に変更した。</p> <p><参加者>総数：185 名 (対前年度 75 名増)</p> <p>児童：65 名 (対前年度 11 名増)、一般他：120 名</p> <p>ものづくり教室コーナー、サイエンスショー、科学工作、子ども会によるバザー、エクササイズ、京築バーガー作り、作品展示などを実施した。</p> <p>地域住民、社会教育団体などを講師として協力依頼をした。</p>	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	<p>公民館まつりの回数を増やす方向で検討してはどうか。</p>

		<p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○他のイベント開催時期を避け、9月に実施したが、小学校の運動会と重なるなどしたため、引き続き開催時期について協議するとともに事業内容の充実に努める。</p>					
	<p>人権教育の推進</p>	<p>○みやこ町人権教育研究会事業として、若手教員を中心にリアリティのある全体研修会を実施し、同和問題の現実について認識を深めることができた。</p> <p>○町内の全小中学校から、NPO法人主催の人権文化フェスティバルへ参加した。</p> <p>○人権男女共同参画室と連携し、人権啓発チラシ「人権だより」や人権啓発冊子「おおぞら」を発行し、全戸に配布した。また、7月の福岡県同和問題啓発強調月間では、街頭啓発を実施し、12月には人権のつどいを開催</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>B (B)</p>	<p>A (A)</p>	

		<p>し、人権作品の表彰や講演会等を実施した。（隣保館まつり、人権啓発講演会は台風のため中止。）</p> <p>○女性学級や高齢者大学では引き続き、身近な人権等をテーマにした講座を開催した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○今後も全体研修会を実施し、経験年数等に応じた人権教育に努める。</p> <p>○NPO法人等主催の研修会への参加を募り、部落差別の現実を学ぶ機会を増やしていく。</p> <p>○女性学級や高齢者大学等の学習機会を活用し、人権教育や啓発活動に努める。</p>					
生涯学習環境の整備	生涯学習情報提供の充実	<p>○町広報・防災行政無線・ホームページ等を活用し、高齢者大学、女性学級、文化健康講座等開催等の情報提供を行う共に、子ども体験教室については、直接、学</p>	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	啓発が充実してきており評価できる。

		<p>校へチラシ等の配布を行った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○多くの方に参加していただけるよう、広報誌やホームページ・チラシの配布方法等の工夫に努める。</p>					
	<p>社会教育団体等への支援と活動の活性化</p>	<p>○町子ども会育成連合会へは事務局として参画すると共に、活動助成や支援を行っている。</p> <p>(主な子ども会事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蛇淵キャンプ場での野外活動研修：参加者17名 ・アジャタ大会：参加者約150名 ・ソフトバレー大会：参加者約120名 ・カルタ大会：参加者約100名 <p>○町婦人会・諫山校区アンビシャス広場等社会教育団体に活動助成や支援を行っている。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p>	<p>A (A)</p>	<p>B (A)</p>	<p>A (B)</p>	<p>A (A)</p>	<p>企画されできあがった事業や活動を展開することも大切であるが、企画の段階からできる限り子供たちに参加させ、子供たちのニーズに応じた内容と方法を工夫することを期待したい。</p>

		<p>○近年、少子化等の影響により、子ども会の加入者及び子ども会事業の参加者が減少している中、より魅力ある子ども会活動の実現に向け、子ども会役員と連携し、事業内容等の見直しも検討していく。</p> <p>○地域の活性化等につながる社会教育団体の活動については、引き続き支援していくが、今後の団体の在り方等については、団体役員等と検討していく。</p>					
地域人材を活かした学習内容の充実	アンビシャス広場の推進	<p>○諫山校区アンビシャス広場では、地域の中で異学年の友達との様々な体験活動により、子ども達に他人を思いやる心や地域を愛する心が育まれている。また、地域ボランティアやPTA組織、学校などと一体となった取組みであるため、地域住民の連帯意識が育まれている。</p>	A (A)	B (B)	A (A)	A (A)	<p>継続を期待するが、希望する中学生を参加することはできないのか。</p>

			<p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○地域ボランティア等指導者不足が見受けられるため、事業の必要性を理解する人材の育成が必要である。</p>					
		通学合宿事業の推進	<p>○児童の規則正しい生活習慣や自主性・協調性を高めるため、町内2カ所で通学合宿を実施した。子ども達の自主性や協調性等が育まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒田小学校6年生26名(3泊4日) ・諫山校区アンビシャス広場4年生～6年生の希望者16名(6泊7日) <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○学校実施分については、町職員もスタッフとして参加しており、スタッフが不足している状況であるため、事業の必要性を理解する地域ボランティア等の育成が必要である。</p>	A (A)	B (B)	A (A)	A (A)	<p>児童の体験不足を補完する上で有効な事業であり、継続を期待するとともに、中学生の参加はできないのか。</p>

	<p>図書館や博物館など、文化施設を有効活用した学習活動の推進</p>	<p>○子ども会事業の一環として博物館を利用した。 ○サンダートみやこを、高齢者大学・女性学級の合同開・閉講式、通学合宿、文化健康講座等の会場として利用した。 《課題・今後の方向性》 ○今後も、文化施設の有効活用を図るため、図書館係や文化係、社会教育団体等と連携を図り、学習活動を推進していく。</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>B (B)</p>	<p>A (A)</p>	<p>施設の特長を生かした継続を期待する。</p>
	<p>社会教育施設の適正配置と老朽化に伴う施設整備の在り方の見直し</p>	<p>○町が作成した公共施設再配置計画について、公民館運営審議会・スポーツ推進協議会・図書館協議会において、社会教育施設等の適正配置等について意見交換を行った。各委員から「行財政改革を進めていく上で、廃止は止むを得ないが、利用者への丁寧な説明を」「遠方の施設になれば、利用者が減少する」など賛否が分</p>	<p>A (A)</p>	<p>B (B)</p>	<p>B (B)</p>	<p>B (B)</p>	<p>行財政改革との兼ね合いもあるが、生き甲斐対策の観点から身近な施設活用も検討して欲しい。</p>

		<p>かれる意見が出された。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○町の方針に沿って、廃止するに施設については、引き続き、関係機関と十分に協議し、利用者等へ説明及び周知徹底を図る必要がある。また、施設廃止後の跡地利用についても、効果的な利用を図るため、関係地域・関係団体・関係各課等と協議していく。</p>					
--	--	---	--	--	--	--	--

3 図書館の整備・充実

○施策の方針

住民に広く親しまれ、利用されるため、町内各図書館の連携強化を図り、特色ある図書館運営を行います。また、子どもの読書活動推進として、ブックスタート²やステップワンブックス事業³などを進めるとともに、学校図書館や関係機関と連携し、読書活動の支援を行います。さらに、隣接の歴史民俗博物館と連携したイベントや読書週間などのイベントによる利用促進を図るなど、様々な連携強化策を検討します。

主要 施策	主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
				有効性	効率性	達成度	総合評価	
図書館の 利用促進	中央図書館、分館、移動図書館の 連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ○豊津中央館の休館日を火曜日、犀川・勝山分館の休館日を月曜日とし、いずれかの図書館が常に開館している状況を維持している。 ○図書館システムの更新を行い、利用者が利用しやすいWEBサービスの改善を行った。 ○図書館の統廃合を見据え、選書方法の見直しを行った。 ≪課題・今後の方向性≫ ○図書館の再配置計画に基づ	A (A)	B (B)	A (A)	A (A)	財政的な面からの統廃合ではなく、町民の読書活動の向上の面を重視し、3館の存続を検討してもらいたい。	

² ブックスタート事業…自治体が行う0歳児健診等で、絵本を開く楽しい体験とともに、赤ちゃんに絵本を手渡す活動。

³ ステップワンブックス事業…ブックスタート事業のフォローアップで12ヶ月授乳幼児を対象とした活動。

		く統廃合後の図書館運営を見据え、蔵書の再構成や巡回図書館の見直し等を行う。					
ホームページなど広報活動の充実	<p>○ホームページやフェイスブックを活用し、図書館の事業を多くの方に周知できるように努めている。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ホームページやフェイスブック等を活用し図書館事業をスピーディに周知したい。</p>	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	ホームページや広報を上手に活用し、周知できていると思う。	
子ども読書活動の推進	<p>○全館において、定期的にお話し会を開催している。</p> <p>○子ども読書まつりを全館で開催し、保育園児を招待したお話し会・図書館見学会、子どもの本を活用したビンゴゲーム等を実施した。</p> <p>○児童を対象にものづくりを体験させる夏休みチャレンジ教室を開催した。</p> <p>・中央館 参加者 28(30)名 ・犀川館 参加者 21(37)名</p>	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)		

		<p>・勝山館 参加者 44(43)名 計 93(110)名 対前年度 17名減</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○交通手段がなく、子どもだけでは図書館に来館できない場合がある。親子や家族の方が興味を持つような内容を検討し、多くの方に来館していただけるようなイベントを計画していく。</p>					
図書館を活用した地域文化活動の促進	読書ボランティア等の人材の育成・確保	<p>○読書ボランティア養成講座を開催した。</p> <p>○保育所等の子ども達を対象にボランティアによるお話を開催した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○子ども向けの読み聞かせの効果については、保護者には一定の理解は得られている。</p> <p>町内で活躍している高齢者向けの読み聞かせボランティアを活用し、高齢者向け講座等の開催について検討</p>	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	

		する。					
	ブックスタート事業の推進	<p>○乳幼児健診（4カ月児、1歳児）で2冊の絵本を配付している。</p> <p>○7名のブックスタート支援員と一緒に絵本の読み聞かせをして丁寧に手渡した。</p> <p>○ブックスタートパック提供数、94名（97名中）</p> <p>○ステップワンブックス提供数、94名（102名中）</p> <p>○ブックスタートのフォローアップ事業として「ベビーサイン講座」「わらべうた講座」を開催した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○ブックスタート事業を継続して、絵本と読み聞かせの重要性を説明し、赤ちゃんと保護者も含め図書館利用者が増加するよう、事業の充実を図っていく。</p>	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	3歳児健診での絵本配布を検討してもらいたい。
	図書館を活用した各種行事	○暮らしの身近なものをテーマとした講座・講演会を各	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	引き続き、他の課、施設等と連携して会場を

		<p>館で行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央館 「鳥のモビール作り」 参加者 21 名 「春の寄せ植え講座」 参加者 20 名 ・犀川館 「おりがみ教室」 参加者 24 名 「木工作品教室」 参加者 13 名 ・勝山館 「手作りコースターを作ろう」 参加者 17 名 「しめ飾りを手作りしよう」 参加者 20 名 <p>○各講座・講演会の内容に沿った資料の展示を行った。</p> <p>○認知症の方やその家族、地域の方などが自由に参加できる集いの場「オレンジカフェ」の開催場所として中央館を提供した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○暮らしの身近なものをテ-</p>				<p>提供しつつ、図書館の来館者数を増やしていく取り組みを行ってもらいたい。</p>
--	--	--	--	--	--	--

		マとした講座・講演会等の開催により、日頃、図書館を利用しない方たちの参加が多かった。今後も継続していく。					
	博物館と連携した文化活動（ギャラリー利用）の推進	<p>○博物館の文化歴史講座を図書館で行った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○博物館と連携した文化活動が少ないので連携・情報交換・資料提供等を多くする。</p>	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	

4 遺跡・文化財・博物館の整備・活用

○施策の方針

文化財を町の重要な資源として保存・継承するために、必要な整備や文化財保持・継承団体への支援を行うとともに、老朽化した施設・設備の再整備を図ります。また、郷土の歴史を活かした教育や地域振興を目指し、歴史文化遺産を前面に出した展示を行います。さらに、博物館が歴史文化遺産を活用した交流拠点となるために、積極的に県内外他市町村との交流・連携を進めます。

主要 施策	主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
				有効性	効率性	達成度	総合評価	
町内の文化財の有効活用	国府跡公園・国分寺跡公園等の有効活用		○文化財を活用したイベントとして、第7回「豊前国府まつり」を11月に国府跡公園において実施した。子どもイベント広場では、モノづくり体験として、火おこし、勾玉づくり等を学芸員が子ども達に指導し好評を博した。(参加者:約200名) また、2月に実施した第13回「三重塔まつり」では、好天にも恵まれ、町内外から多くの来場者があり、「特産品・地元農産物の販売」「ゴマ焚き」「火渡り体験」等を楽しんだ。 いずれのイベントも引き続	A (A)	B (B)	A (A)	A (A)	

		<p>き地元区と協力・連携し、事業を実施した。</p> <p>○国府跡公園・国分寺跡公園の清掃業務については、引き続き地元区に委託し、地域住民と協働して管理を行った。</p> <p>○平成30年度において、歴史公園内における事故等は無かった。</p> <p>○その他文化財の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国指定重要文化財「永沼家住宅」の保存管理・公開活用等業務については、引き続き永沼家住宅保存協会に委託し、地元住民と協働して、管理・活用を図った。 ・勝山地区の古墳（指定文化財4件）の清掃については、引き続き、それぞれ地元区等に委託し、協働で維持管理を行った。 <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○「豊前国府まつり」におい</p>					
--	--	---	--	--	--	--	--

	<p>ては、イベント内容が固定化傾向にあるため、内容等を含め、見直しを検討する。</p> <p>○国分寺跡公園については暗渠排水等が劣化しているため、引き続き文化庁・県文化財保護課とも連携し、整備計画を調整していく。</p> <p>○永沼家住宅については、屋根等の一部が経年劣化により痛みが目立ち始めている。今後、文化庁・県文化財保護課等と協議を進め、補助金を活用した修繕を行うため調整を進める。</p> <p>○手軽な観覧が難しい有形文化財資料について、平成 27 年度から着手している文化庁の補助事業を利用した対象資料のデジタル化やインターネット上の公開事業を継続して実施して行く。</p>					
文化財案内板等の設置	<p>○国指定無形民俗文化財「豊前神楽」について、その指定地域 5 箇所（上伊良原・</p>	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	

		<p>上高屋・横瀬・燈畑・光富)に解説板を設置した。</p> <p>○綾塚古墳において、駐車場の整備と併せて、解説板を設置した。</p> <p>○既存の解説板・案内板の保守・管理拡充のための情報整理を行うとともに、設置に当たっての指針づくりに着手している。</p> <p>○案内板については、観光まちづくり課と連携し、観光まちづくり課の事業として実施した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○案内板については、引き続き観光まちづくり課と連携し、設置していく。</p> <p>○国県町指定の文化財だけでなく、見学者が多く注目度の高い文化財についても、今後、計画的かつ継続的に解説板の設置を進める。</p> <p>また、設置については対象文化財の公益性や実情に配</p>					
--	--	---	--	--	--	--	--

		慮し、文化財保護委員会の見解等を参考にして行く。					
歴史民俗博物館の事業機能強化	博物館資料収集・展示・教育普及事業	<p>○展示事業 博物館展示の一層の周知を図るため、企画展を3回実施した。</p> <p>① みやこと世界の昆虫展 ② 最後の朝鮮通信使展 ③ みやこの先人・島山鶴雄展 特に夏休み期間中に開催した昆虫展では、町内外から多くの子ども達が来館し、好評を得た。</p> <p>期間：7月22日～8月31日 期間中来館者1,868名 (対前年度：1,096名増)</p> <p>○小笠原文庫寄託資料の内「ユネスコの世界の記憶遺産」に登録された朝鮮通信使資料の維持保全のため「対州御下向海陸日記」他5点6冊のレプリカを作成した。</p> <p>○教育普及活動 ・歴史講座年間受講者数</p>	A (A)	A (A)	A (B)	A (A)	<p>動的な展示や体験型の展示など、内容や方法の工夫が見られ、子供も大人も楽しめる事業になり評価できる。</p> <p>今後より一層、他地域の博物館と連携し、展示物を借り、魅力のある企画展の開催が必要である。</p>

		<p> 古典かな講座 217 名 漢詩紀行講座 94 名 古文書講座 174 名 <u>みやこ学講座 254 名</u> 計 739 名 (対前年度：59 名増) </p> <p>○小中学校学習支援</p> <p>博物館や町内文化財の見学説明及び出前授業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延べ対応件数 38 件 (町内 35 件、町外 3 件) ・延べ対応人数 1,078 名 (町内 925 名、町外 153 名) <p>○博物館観覧・利用・参加者数</p> <p>平成 30 年度／9,863 名 (対前年度：846 名増)</p> <p>※各種学習支援・各種行事等を含む</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○今後も多くの方が博物館に興味を持ち、かつ話題性のある企画展の実施に向けて内容を検討する。</p>				
--	--	---	--	--	--	--

	○博物館の魅力等の発信力を引き続き強化し、利用者の増加を図る。現在養成中であるガイドボランティア等を活用し、普及活動を中心に博物館活動のさらなる充実に努める。					
博物館友の会運営事業	○博物館友の会は独立採算で各種文化事業を行っている。平成30年度の会員数は152名で、バスハイク・歴史ウォーク等9件の学習事業を実施した。 《課題・今後の方向性》 ○広報活動を活発化し、新規会員、特に若年層の入会を促進していく。	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	
普及・啓発用刊行物等の作成事業	○博物館だより 毎月の年12回発行し、町内全戸配布と交流教育機関等へ郵送を行っている。 ○平成30年度、新たなパンフレットの製作はないが、既存の紹介・解説リーフレット（文化財マップ、豊前国	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	

	<p>府跡、綾塚古墳、永沼家住宅)を増刷した。</p> <p>(印刷総数：15,000部)</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○博物館だよりについては、掲示内容等を見直し、今後も継続して発行していく。また、博物館普及資料の作成についても利用者ニーズを把握し、作成に努める。</p>					
ホームページの管理・運営事業	<p>○ホームページ「みやこ町デジタルミュージアム」の運営を行い、文化財・博物館情報の発信を行った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○情報発信の迅速化を図るためには専任者の配置が必要である。</p>	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	町内外に広く情報発信する手段として、専門家等の意見を参考に来館者増を図る方策が必要である。専門業者に依頼することも検討してはどうか。
他博物館と連携や交流・支援事業等の展開	<p>○30年度は、みやこ地域の市町と連携し、文化歴史講座「豊とみやこの歴史散歩」と題して、3回シリーズで講演事業等を実施した。町内外からの参加があり好評を得た。</p>	A (A)	A (B)	B (B)	A (B)	

		<p>(参加総数：71名)</p> <p>○資料貸出等については、他館宛て貸出(5件)や情報・資料提供(38件)を実施。主な提供先は次の通り。</p> <p>①九州歴史資料館 「福岡県の城」展／小笠原文庫育徳館資料)</p> <p>②行橋市歴史資料館 「行橋の明治百年」展／小笠原文庫育徳館資料)</p> <p>③香春町教育委員会 「古代香春への道」展／豊前国府跡出土資料)</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○歴史的に縁のある自治体の博物館・資料館との交流を継続するとともに、関係各館と協力協定の締結等を検討する。</p>					
遺跡・文化財の整備推進	遺跡を保護するための各種調査、記録保存	<p>○各種開発事業に対応した保存対応の調査や調整を行った。</p> <p>①試掘・確認調査：2件</p> <p>②工事立会：7件</p>	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	

		<p>③ 本発掘調査：0件 ④ 照会件数：126件</p> <p>○旧町の発掘調査に係る調査報告書刊行にむけ、国庫補助を活用した整理作業を行った。(黒田エノヲ遺跡)</p> <p>○旧町やみやこ町発足後に発掘調査を実施したものにおいて、発掘調査報告書未刊行分の遺物の数量を精査し、報告書作成の年度計画を作成した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○報告書作成年度計画に基づき報告書の作成を進める。</p>					
	<p>遺跡・文化財の適切な整備・活用</p>	<p>○綾塚古墳において、駐車場整備工事(大型車：2台・普通車：13台(内、障がい者用1台))を実施した。</p> <p>また、駐車場地内に案内板・解説板を設置し利用者の利便性を図った。</p> <p>○永沼家住宅について、消防ホースの取替、放水銃の修繕等を行い、火災予防に万</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>B (B)</p>	<p>A (A)</p>	

	<p>全を期した。</p> <p>○周辺住民から依頼のあった彦徳甲塚古墳・綾塚古墳・扇八幡古墳・豊前国分寺跡公園内の大型樹木を伐採した。</p> <p>○歴史公園等の定期的な巡視を実施し、国分寺跡公園内のベンチの修繕、甲塚古墳内の階段の修繕、国府跡公園内にある遊具の盛土の補充を行い、利用者の安全性・利便性の向上を図った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○平成24年度の文化財保護委員会の答申に基づき、引き続き、文化財の整備に努める。</p>					
<p>伝統文化・芸能等の保存、継承に向けた活動及び関係団体・機関等の支援</p>	<p>○30年度の新規の国・県・町指定の文化財はなかった。</p> <p>○国指定重要無形文化財「豊前神楽」の指定地域5箇所に解説板を設置したことにより、文化財の周知、愛護意識の涵養を図ることがで</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>B (B)</p>	<p>A (A)</p>	<p>定期的な巡回と計画的な整備の実施は評価できる。今後も継続を期待する。</p>

		<p>きた。</p> <p>○指定文化財保存団体や地域史研究団体等の文化財愛護団体に対し、各種補助・支援・協力等を行い、文化財の保存・継承、顕彰愛護活動を支援した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○旧町単位でばらつきのある指定文化財の志向や基準について、平均化を図るため文化財保護委員会等で検討していく。</p> <p>○指定文化財保存団体や地域史研究団体等の文化財愛護団体に対し、引き続き支援を行う。</p> <p>また、民俗文化財の保存・継承に向け、消滅や再興に備え、映像・音声等の記録保存が必要である。</p>				
--	--	---	--	--	--	--

5 文化芸術振興活動の推進

○施策の方針

文化協会を中核とした文化的活動への支援・共同体制の強化を図るとともに、各文化団体の自主性・独立性を推進するための必要な措置・支援を行います。

主要施策	主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
				有効性	効率性	達成度	総合評価	
地域文化を活かした文化振興事業の推進	文化協会等による文化・芸術活動の支援		<p>○文化協会が主催する事業や活動に対し補助金を交付し活動を支援するとともに、公開事業や町との協働事業には人的・物的な支援を行い、同会を介した町民向け文化・芸術活動の振興に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しょうぶまつり記念発表会（6月） ・文化月間記念発表会（10月） ・産業祭記念発表会（11月） ・文化芸能フェア（3月） <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○会員の高齢化により、会員数が減少化傾向にある為、新規会員の加入促進に努める。</p> <p>○一般への公開・還元を目的とする公益性の高い事業について引き続き支援・協力を進めていく。</p>	A (A)	B (A)	A (B)	A (A)	

	<p>文化団体の自主的な運営に向けた 取組・活動等の支援</p>	<p>○文化協会が、構成単位となる各文化団体や教室はもちろん、町内外の文化芸術団体・関係機関等とも積極的に交流や調整を担う主体として機能できるよう、組織運営を含め支援や調整を行った。</p> <p>○10・11月を「文化月間」とし、期間中の文化芸術関連催事や事業の情報発信を積極的に行った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○文化協会事業に際しては、現在、町雇用の臨時職員を専属事務員として雇用しているが、文化協会がより自主的な運営ができるよう、今後の支援の在り方について文化協会と協議していく。</p> <p>○文化協会に属さない文化団体等でも参加可能な公的文化行事の開催について検討していく。</p>	<p>A (A)</p>	<p>B (B)</p>	<p>B (B)</p>	<p>B (B)</p>	
--	--------------------------------------	--	------------------	------------------	------------------	------------------	--

	<p>伝統文化(遺産)を活かした文化振興事業の実施</p>	<p>○古墳まつり(10月)において実施した「文化のみやこ」づくり記念絵画・作文コンクールでは、京築地域の小中学校(28校)から多数の応募があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵画応募総数 (小中学校:1,203点) ・作文応募総数 (小学校:44点) <p>○三重塔まつりと同時に開催した、第33回少年少女俳句大会(2月)では、みやこ地域の小中学校(35校)から多数の応募があった。</p> <p>(応募総数:4,277名、9,368句)</p> <p>30年度から新たに「みやこの先人」の一人である「小宮豊隆」に因んで特選句を「小宮豊隆賞」「三四郎賞」「蓬里雨賞」と命名し、みやこ町に縁のある先人を知る契機とした。</p> <p>≪課題・今後の方向性≫</p> <p>○今後とも、学校等へ積極的に</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>意義ある取組であるため、更なる取組の充実を期待したい。</p>
--	-------------------------------	---	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------------------------

		情報提供を行い、伝統文化を活かした文化振興事業の推進に努める。					
--	--	---------------------------------	--	--	--	--	--

6 スポーツ・レクリエーションの推進

○施策の方針

スポーツ・レクリエーション活動は、住民相互の交流を生む機会として重要です。総合型地域スポーツクラブや体育協会・スポーツ推進委員による活動を通じて、誰でも、いつでも気軽に参加することができるスポーツ・レクリエーション活動を推進するとともに、競技スポーツの強化、オリンピック選手等トップアスリートの招へいを行うなど競技力の向上に努めます。また、スポーツ・レクリエーション活動の活性化に向けて、レクリエーション指導者や競技スポーツ指導者の資質向上に向けた研修会などに取り組みます。既存のスポーツ施設の中には老朽化が進んでいるものもあり、施設の適正な維持管理に努めるとともに、住民の様々なニーズに応じたスポーツ活動が行える環境を作ることで、生涯を通じたスポーツへの参加ができる仕組みづくりに取り組みます。

主要施策	主要事業	事業	内容・成果	評価				外部評価
				有効性	効率性	達成度	総合評価	
住民主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進	スポーツ推進計画の策定		<p>○平成28年度に作成した第2次みやこ町総合計画をスポーツ振興計画と位置づけ、誰でも、いつでも気軽に参加できるスポーツ・レクリエーション活動を推進していく。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○今後とも、みやこ町総合計画に基づき、スポーツ推進審議会において、スポーツの推進について意見交換を行い、スポーツの振興を図る。</p>	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	

	<p>子どもと高齢者の体力づくりの推進</p>	<p>○幅広くスポーツに親しめるように体育協会、スポーツ推進委員、スポネット TOYOTSU (総合型地域スポーツクラブ) と連携し、スポーツフェスタ・マラソン大会・チャレンジデーなどを実施した。</p> <p>○町立保育所年長・年中を対象にリズム体操・水泳教室を年間 23 回実施した。</p> <p>○B & G 杯ソフトバレーボール大会や剣道大会を開催し、幅広い年齢層の参加を得ることができた。</p> <p>○スポネット TOYOTSU では、ジュニアプログラムにより年間 36 回程度各種スポーツ活動の実践を行っている。また、一般・シニアの体力アップ運動教室を、年間 48 回、水中運動教室を年間 15 回実施している。更に、小学校より指導者派遣依頼を受け、クラブ活動指</p>	<p>A (A)</p>	<p>B (B)</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>子供も大人も一緒に楽しめる企画であり、評価できる。</p>
--	-------------------------	--	------------------	------------------	------------------	------------------	----------------------------------

		<p>導者の派遣を行っている。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○子どもから高齢者まで幅広い年齢層へのスポーツ・レクリエーション機会を提供することができた。今後も体育協会やスポーツ推進委員等関係機関と連携し、より多くの町民が参加できるよう多種多様なスポーツ機会を提供していく。</p>					
誰でも、いつでも気軽に参加することができるスポーツ・レクリエーション活動の推進	海洋性スポーツの普及	<p>○町広報誌等で海洋性スポーツ体験教室の募集を行い、7月に子ども育成会等の6団体、延べ131名が犀川本庄池でカヌー・ヨット教室に参加した。海のない町で、海洋性スポーツ・レクリエーションを体験することは、子ども達にとって貴重な経験になっているものと考えている。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○指導者として、役場他課の職員数十名の協力により開</p>	A (A)	B (B)	A (A)	A (A)	

			<p>催しており、教室開催日の指導者確保が厳しい状況であるため、一部外部委託等運営体制の見直しを図る。また、B & G艇庫の舟艇・機材等も老朽化しているため修理等が必要である。</p>					
		<p>競技スポーツの振興</p>	<p>○競技スポーツについては、主に体育協会加盟クラブが競技大会や審判講習会等を開催している。</p> <p>○さわやかマラソン大会兼京都郡ロードレース大会は800名を超える申し込みがあり、約700名の参加があった。</p> <p>○福岡県民体育大会は、県内持回りにより、平成30年度は筑後地区で開催された。</p> <p>○豊津陸上競技場において、体育協会などが主体となり開催している陸上競技大会「白川力杯」は、町内外から延べ500名弱の参加があった。</p>	<p>A (A)</p>	<p>B (B)</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>競技スポーツへの関心が高まっているため、事業の継続を期待したい。</p>

		<p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○第4種公認の豊津陸上競技場は、施設の老朽化等により、維持管理費が高額であるため、公認の更新について検討が必要である。</p> <p>また、公認陸上競技大会を開催するに当たり、公認審判員が不足しているため、公認審判員の育成が必要である。</p>					
	<p>スポーツ推進委員等によるニュースポーツの普及・推進</p>	<p>○スポーツ推進委員による「みんなで楽しく遊ぼうデー」を犀川体育館、「ふれあいスポーツ教室」を勝山体育館でそれぞれ、毎月1回開催し、ニュースポーツの普及・推進を図っている。</p> <p>○スポネット TOYOTSU との連携によりジュニアプログラムやシニア体力アップ事業などに参画するとともに、小学校・子ども会等に指導者として協力している。</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>B (B)</p>	<p>A (A)</p>	<p>継続して、放課後クラブや老人ホーム等の団体や施設に積極的に声かけをして、参加を促す取り組みが大切である。</p>

	<p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○関係各課・機関等と連携し、引き続き、誰もが参加できるニュースポーツの普及・推進に努める。</p> <p>○スポーツ推進委員も高齢化傾向にあるため、若手の推進委員の加入促進を図る必要がある。</p>					
ホームページの管理・運営事業	<p>○体育施設の変更内容等の更新やイベント等の案内・結果等の情報提供を行っている。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○今後とも迅速かつ的確に情報提供を行う。</p>	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	
スポーツフェスタの充実	<p>○「スポーツフェスタ IN みやこ 2018」としてアジャタ・ソフトバレー・卓球・軟式野球・バレーボール・グラウンドゴルフ・登山教室等を実施し、幅広い年齢層から、延べ1,472名の参加があった。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p>	A (A)	B (B)	A (A)	A (A)	

		○スポーツフェスタとして根付きつつあるので、当面は継続していく。					
	アダプテッド・スポーツ ⁴ の取組	○スポーツ推進委員による「みんなで楽しく遊ぼうデー」「ふれあいスポーツ教室」等を開催するとともに、障がい者を対象とするスポーツの指導者講習会等に参加し、指導者の育成に努めている。 ≪課題・今後の方向性≫ ○障がい者を対象としたスポーツ大会等の開催に向けて関係各課・機関等と協議していく。	A (A)	B (A)	A (B)	A (A)	障害者を対象としたスポーツはとても大切なことであるので、今後先進地域に学びながら積極的に推進してもらいたい。
競技スポーツの振興	体育協会によるチャンピオンスポーツの実施支援	○体育協会により、陸上、卓球、バレーボール、軟式野球、ソフトボール、水泳、ソフトバレーボール、サッカー、空手、剣道、バドミントン等の競技スポーツ活動を振興している。	A (A)	A (A)	B (B)	A (A)	

⁴ アダプテッド・スポーツ (adapted sports) …障がい者や高齢者、子どもあるいは女性等が参加できるように修正された、あるいは新たに作られた運動やスポーツ・レクリエーション全般のこと。

		<p>○京都郡大会や県民体育大会などに町代表選手の派遣を行っている。</p> <p>○体育協会の規定により、全国大会出場助成を、2団体（ソフトボール2チーム）と3名（空手2名・卓球1名）に行った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○体育協会の組織体制強化及び活性化を図るとともに、チャンピオンスポーツへの支援体制について検討して行く。</p>					
	<p>オリンピック選手などトップアスリートの招へい</p>	<p>○オセアニアオリンピック委員会と締結した2020年東京オリンピック事前キャンプ実施に係る基本合意書に基づき、9月10日から10月7日の期間において、豊津陸上競技場を主として、3名の陸上選手（グアム・キリバス）の事前キャンプを行った。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>2020 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた多くの取組と連携しながら、アスリートと町民との交流が充実する企画を期待したい。</p>

		<p>今後も、基本合意書に基づき、オリンピック出場を目指す陸上選手を招き、豊津陸上競技場等を主練習施設として提供し、地域住民とも文化交流等を行う。</p> <p>○事前キャンプ地としての受け入れ体制の整備に努める。</p>					
<p>既存の体育施設の有効活用と利用促進</p>	<p>複合的な活用を考えたスポーツ施設の活用</p>	<p>○豊津運動公園内には第4種陸上競技場、体育館、プール、トレーニングセンターなどがあり、さわやかマラソン大会や隣接の菖蒲園などのまつりにも利用されている。</p> <p>○犀川体育館・中央公民館・周辺駐車場を利用し、産業祭を行った。</p> <p>○犀川運動公園内に、野球場・多目的グラウンドと併せ体育館もあり毎年少年サッカー大会やソフトボール大会など京築や近郊大会の主会場となっている。</p>	<p>A (A)</p>	<p>A (A)</p>	<p>B (B)</p>	<p>A (A)</p>	<p>より多くの人々に利用できる施設として評価できる。</p>

		<p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○関係各課・機関と協議検討を行い、複合的な施設の有効活用に努める。</p>					
	<p>海洋性スポーツ・レクリエーション施設（B&G 財団）の利用促進</p>	<p>○7月に犀川艇庫（本庄池）でカヌー・ヨット教室を実施した。</p> <p>○豊津B&Gプール（年間延べ利用者4,510名：対前年度642名減）にて小学生を対象とした水泳教室を実施した。</p> <p>○小中学校・保育所の授業に利用（無料）させるとともに夏休みの無料利用券（1人6枚：プールの無い小学校対象）を発行している。</p> <p>○豊津B&G体育館（年間延べ利用者37,560名：対前年度310名増）・犀川B&G体育館（年間延べ利用者7,725名：対前年度3,469名減）においては、学校行事・部活動などの利用（無料）、各種団体（体育協会、子ども</p>	A (A)	B (B)	A (A)	A (A)	

		<p>会、老人会など) への使用料減免措置を行っている。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○公共施設の再配置計画に基づき、平成 31 年度には、破損している犀川 B & G プールを解体するとともに、合併以来カヌー・ヨット教室を実施していない豊津ミニ艇庫(裏ノ谷池)は、体育倉庫として活用していく。</p> <p>また、令和元年度の犀川 B & G 体育館の解体に向け、利用者等への情報提供を行う。</p>					
指導者の育成・発掘	スポーツ・レクリエーション指導者の育成	<p>○海洋性スポーツにおける B & G リーダー研修を実施し、新規 3 名を育成した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○毎年、役場新人職員にリーダー研修を受講させているため、リーダー登録者は増えているものの、リーダーを育成する指導者の後継者</p>	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	人材発掘や育成には、時間がかかるので計画的な実施を期待する。

		づくりが課題である。今後 B & G 財団主催の指導者養成研修への参加を検討する。					
	スポーツリーダーバンクの構築と活用	<p>○スポーツ推進委員やスポネット TOYOTSU を中心に指導者講習会等に参加し、各種団体等からの依頼に対応した。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○今後も、指導者の育成強化を図るため、指導者講習会等への参加を促していく。</p>	A (A)	B (B)	B (B)	B (B)	地道な活動を評価したい。
運動をすることでの健康づくりへの取組	実践しやすい運動について情報提供	<p>○スポーツ推進委員やスポネット TOYOTSU が実施している各種教室やスポーツフェスタにおいての登山教室・グラウンドゴルフ大会・町民ウォーク大会など誰もが参加しやすい運動についての情報提供を行っている。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○今後とも、町民誰もが気軽に参加できるような魅力のある教室を開催し、防災行</p>	A (A)	A (B)	B (B)	A (B)	

		政無線・広報等での情報提供に努める。					
	関係団体との連携	<p>○スポーツ推進員やスポネット TOYOTSU 等と連携を図りながら、卓球バレー・ボッチャなどニュースポーツの推進を図った。</p> <p>また、今まで取り組んでいなかった障がい者を対象とする競技の実施について、関係各課やスポーツ推進委員等との協議をスタートさせた。</p> <p>《課題・今後の方向性》</p> <p>○関係機関等との連携をさらに強化し、日頃運動していない人が、気軽に取り組めるスポーツ機会を提供していく。</p>	A (A)	A (B)	B (B)	A (B)	他団体と連携し、障害スポーツに携わっている人を多く招聘し、共に競技ができる機会の場を設けてはどうか。

令和元年 8 月 23 日

令和元年度 みやこ町教育委員会自己点検・評価（平成 30 年度対象）に対する外部評価委員会の所見

外部評価委員長 芋生 修一（福岡教育大学 教職大学院特任教授）

委員 馬場 正幸（教職員経験者 小学校長経験者）

委員 中村 政弘（みやこ町教育行政経験者）

みやこ町教育委員会が平成 30 年度に取り組んだ活動について自己点検・評価をおこなったが、その点検・評価に対して外部評価委員会は 3 回に亙る委員会において慎重に審議した結果、以下の所見を述べる。

1. 外部評価の意義、並びにみやこ町教育委員会点検・評価の方法

『地方教育行政の組織および運営に関する法律』の一部改正（平成 20 年 4 月施行）により、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、報告書を作成し、議会に提出するとともに、情報公開の一環として広く市町村住民に公開することにより、住民に対して説明責任（アカウントビリティー）を果たすことが求められることとなった。

みやこ町における自己点検・評価及び外部評価は今年で 8 年目を迎えた。今年度の点検・評価及び外部評価は、基本的には前年度までの内容及び方法をほぼ踏襲して、平成 30 年度の教育委員会活動を、Ⅰ. 教育委員会の活動、Ⅱ. 教育委員会が管理・執行する事務、Ⅲ. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務、の 3 つに区分し、それぞれについて教育委員会の活動の進捗・達成状況等を点検・評価している。その中で、「Ⅲ. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」に係る主要施策・主要事業、並びに各活動については、「第 2 次みやこ町総合計画（平成 28 年度～平成 32 年度）の基本計画に示された主要事業及び教育委員会で策定した「平成 29 年度みやこ町教育施策リーフレット」の主要事業に対応し、「学校教育における学習環境の充実」、「生涯学習のための環境整備」、「図書館の整備・充実」、「遺跡・文化財・

博物館の整備・活用」、「文化芸術振興活動の推進」「スポーツ・レクリエーションの推進」の6つの施策から構成され、各々に主要施策並びに主要事業が設定されている。

以上の各施策並びに事業の達成に向けて実施された活動（取組）に対して点検・評価を実施している。

各評価項目（取組）に対する点検・評価並びに外部評価にあたっては、「Ⅰ. 教育委員会の活動」及び「Ⅱ. 教育委員会が管理・執行する事務」については、各取組の実施状況に対して、評価基準を「A. 達成できた」「B. おおむね達成できた」「C. 達成できなかった」の3段階評価として教育委員会が自己点検・評価したものを、項目ごとに外部評価委員がその内容を確認し、別紙評価シートに評価を記載するとともに、以下の所見で総合的評価を記載する形を採っている。また、「Ⅲ. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」については、「有効性」、「効率性」、「達成度」の観点及びそれら3つの「総合」という、合わせて4つの観点が設定されている。そして、「有効性」の観点から「A. 有効である」「B. おおむね有効である」「C. あまり有効でない」、また「効率性」の観点から「A. 実施できている」「B. おおむね実施できている」「C. 実施できていない」、「達成度」の観点から「A. 期待を上回る」「B. おおむね期待通り」「C. 期待を下回る」、最後に「総合評価」として「A. B. C.」の、それぞれ評価判断基準を設けた。この評価方法による各項目の点検・評価の結果について、外部評価委員会は、2回に亘る聞き取りにおいて各担当部署に具体的な説明を求め、別紙評価シートにできる限り簡潔にその評価を記載するとともに、以下の所見において詳細に述べている。

2. 「教育委員会の活動」及び「教育委員会が管理・執行する事務」に対する外部評価

ここでは、上記「Ⅰ. 教育委員会の活動」及び「Ⅱ. 教育委員会が管理・執行する事務」に係る取組について所見を述べる。

[1] 教育委員会の活動

(1) みやこ町教育委員会会議の運営、公開等

①教育委員会の会議運営等について

会議は定例11回、臨時4回が開催され、適切な運営がなされていると判断する。

②教育委員会の会議の公開等に関すること

これまでの外部評価において、教育委員会の会議をはじめ、自己点検・評価や外部評価に関する情報の公開、並びに会

議の傍聴を促す取組を積極的に推進してほしい旨指摘してきた。そうした指摘に対応して、平成 25 年度以降、教育委員会の開催についてホームページに掲載し周知を図るなど努力が継続的に行われてきた点を評価する。ただ、ホームページによる広報は閲覧できる町民が限られているのではないかという指摘もあり、今後も移動委員会の開催や町広報誌等の利用など、情報公開や住民の積極的関与のための工夫を期待する。

③教育委員の自己研鑽、並びに学校等教育施設に対する支援等に関すること

県内あるいは京築地区で実施された研修会、並びに各学校で開催された研究発表等への参加については、基本的に実施されていることが確認された。今後も、教育方法や教育内容の急激な変化に対応できるよう、研修会や研究協議会への参加による知見（情報等）を確実にフィードバックし、みやこ町の教育行政や教育実践の改善・改革に結びつけるよう一層の研鑽・研修の充実を期待する上からも、必要に応じて研修内容を簡単にまとめて、町民に報告することも検討してもらいたい。

一方、積極的に学校等教育施設を訪問し、学校の状況を意欲的に把握する姿勢が評価できる。今後は、学校訪問後の指導内容や協議内容等を積極的に公開し、町民へ学校状況の理解を促すことも必要となってくる。また、学校訪問の在り方を検討する時期にきているのではないかと考える。学校の主体性が問われているのであれば、学校長のビジョンを問う学校訪問が必要になってくる。

[2] 教育委員会が管理・執行する事務

- (1) みやこ町教育施策について審議・策定し各学校に配付していることが確認された。今後も教育委員会の考え方及びその政策遂行について、各学校長が作成する学校経営要綱へ具体的に反映し、具現化することを期待したい。
- (2) 教育行政の運営の必要上、あるいは各学校及び地域の教育現実等への対応の必要から、適切に諸規則の改正等を行っている判断する。
- (3) 教育委員会の所管に属する各種委員会の委員の任命又は委嘱に関する事項では、適任者の選定がなされていると判断する。今後も、町内の人材情報の収集を心がけ、経験豊富な人材を任命するよう心がけてもらいたい。

3. 「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」に対する外部評価

「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」は、6つに大別された大項目、「学校教育における学習環境の充実」、「生涯学習のための環境整備」、「図書館の整備・充実」、「遺跡・文化財・博物館の整備・活用」、「文化芸術振興活動の推進」「スポーツ・レクリエーションの推進」であり、それぞれの大項目のもとにいくつかの主要施策、さらにその主要施策のもとに主要事業が示されている。点検評価は、主要事業の有効性、進捗状況及び成果を確認し評価したものである。以下は、教育委員会による自己点検評価に対して外部評価委員会が実施した評価の所見である。

< 1 > 学校教育における学習環境の充実

標記の大項目のもとに、「子どもの教育環境の充実」「子どもの健康を守る取組の推進」「学校施設の整備・充実」「児童・生徒の安全確保」「家庭教育力の向上」の5つの主要施策が設けられている。

(1) 子どもの教育環境の充実

この主要施策のもとに、「チームとしての学校づくり」、「9年間を見通した教育の充実」、「時代を担う人材育成のための教育の充実」、「多様な教育ニーズにこたえる教育の推進」、「安全、安心な給食の配食」の5つの主要事業が示されている。「チームとしての学校づくり」については、「心理や福祉など多様な専門家の配置の促進」、「関係機関との連携強化」、「家庭・地域との連携強化」の3つの取組が、また、「9年間を見通した教育の充実」については、「小中連携教育の推進」、「基礎学力向上に向けた教育活動の充実」、並びに「心の教育や体力向上の取組の充実」の3つの取組が、さらに「時代を担う人材育成のための教育の充実」については、「国際理解教育・英語教育の推進」、「キャリア教育の推進」、「郷土を愛する心を育てる教育の充実」の3つの取組が、「多様な教育ニーズにこたえる教育の推進」については、「特別支援教育の充実」「不登校児童・生徒への支援の充実」の2つの取組が、「安全、安心な給食の配食」については、「衛生管理の徹底と安全、安心な給食の配食」「地場産農産物の利用促進」、「食育の推進」の3つの取組がそれぞれ実施されている。

これらの取組に対する評価について、外部評価委員会が特記しておきたい所見は以下の通りである。

- ① 「心理や福祉など多様な専門家の配置の促進」については、町雇用のSSWやスクールアドバイザー、合理的配慮アドバイザー等の配置によって、効果が上がっていることは評価できる。今後も関係機関と連携しながら、引き続き実施できるように予算の確保をお願いしたい。
- ② 「小中連携教育の推進」については、重要な施策であり、計画的に進められていることや年2回の教職員対象研修会の実施及び小学校への中学校教師による出前事業の実施は評価できる。今後は中学校へ小学校教師の出前事業の

実施と共に、出前事業の成果や効果を明らかにすることが期待される。

- ③ 「基礎学力向上に向けた教育活動の充実」については、確実に成果が上がっており、みやこ町学力検証委員会を中心に継続した事業の展開を期待したい。今後、町雇用教員の質の確保と専門性を高める上から、みやこ町教育委員会主催研修会の実施や福岡県教育センターで実施されている講師限定のキャリアアップ講座等への積極的・計画的な応募等を検討していただきたい。
- ④ 「心の教育や体力向上の取組の充実」については、確実に成果が上がっているが、教科「道徳」の全小中学校での実施に伴い、保護者や地域へ道徳授業の公開等を行い、道徳への関心と理解を高めていくことを期待したい。
- ⑤ 「国際理解教育・英語教育の推進」については、児童生徒の英語活動や会話力を高めるためにも、ALT の確保と積極的な派遣及びスピーチ大会などの表現する機会や場の確保は、今後も継続していきたい。
- ⑥ 「特別支援教育の充実」については、特別支援学級においても、専門性を確保し指導力向上の面から、特別支援免許状保有率を高める必要がある。免許状取得に関する事業が、福岡教育大学や福岡県教育センター（ミドルリーダー養成講座特別支援学校教諭免許状単位修得コース）で行われており、知的障がい者・肢体不自由者・病弱者に関する免許状（二種）が取得できる。学校や特別支援学級担任に対して、市教育委員会として、上記のような研修会への積極的・計画的な支援及び人材育成計画の策定を期待したい。
- ⑦ 「不登校児童・生徒への支援の充実」については、SSW や SC の配置が計画的に実施され、その効果も上がっていることを評価したい。今後は校内適応指導教室の設置を計画的に実施するなど、小学校段階からの早期の対応を期待したい。

（２）「子どもの健康を守る取組の推進」学校施設の整備・充実

この主要施策では、「食物アレルギーをもつ児童生徒への適切な対応」が示されている。「みやこ町食物アレルギー対応マニュアル」に基づく種々の取組がなされていると判断する。今後も、適切な対応が図られるよう着実な実行を期待したい。

（３）「学校施設の整備・充実」

この施策では、「統廃合を含む学校再編整備についての検討と、学校再編の推進」、「ICT 教育推進のため電子黒板等の機

器の整備の推進」、「特別支援教育など多様な教育活動に対応できる環境整備」が3つの取組がなされている。学校の再編、統廃合に関しは、学校再編計画は、公表されてから相当期間が経過しているので、「地域の中にある学校」「地域と共にある学校」の趣旨を十分に具体化・具現化するためにも、新小学校の整備計画や開校理念を保護者や地域に周知し、理解を図っていくことを期待したい。

ICT教育の推進については、ハード面と共ソフト面の教材教具の充実を図り、ITC活用の情報を教員に提供することを期待したい。

「特別支援教育など多様な教育活動に対応できる環境整備」については、巡回による通級指導に係る町雇用「合理的配慮協力員」の配置など通級指導教室の環境整備が進んでいることが確認できた。今後も教育的ニーズに応じた教育活動が実施できるように、確実に環境整備を継続することを期待したい。

(4) 「児童・生徒の安全確保」

この主要施策は、「通学路の安全確保」「安全見守り活動の充実」、「スクールバスの適切な活用」の3つの取組がなされている。いずれも着実に実施され、安全確保に努力していることが窺え評価できる。なお、部活動のスクールバス利用は、優れた活用例である。生徒の安全面や教師の負担軽減に極めて有効である。さらなる利活用の拡充を期待したい。また、屏の耐震改修の実施を評価してはどうか。

(5) 家庭教育力の向上

主要事業である「親子での体験活動や保護者が自ら学習する場づくりへの取組」「保護者と連携した学力の向上、規範意識の向上」「発達段階に合わせた連携・教育の推進」の3つが展開されている。

「親子での体験活動や保護者が自ら学習する場づくりへの取組」において、凧づくり作り教室、公民館まつり等、一定の評価があったことが確認できた。更に、家庭教育支援総合事業を全校に広げ、計画的に推進していくことを期待したい。

「保護者と連携した学力の向上、規範意識の向上」では、「ノーテレビ・ノーゲーム」「ストップ・スマホ」など家庭での指導が行いやすいような取組を展開し、確実に成果が上がっていると評価する。この事業は、保護者が主体者であり、学校は支援者であるという関係をつくりながら、更なる活動の充実を期待したい。

＜2＞生涯学習のための環境整備

この取組みでは、「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも」学ぶことができる学習機会の提供」と「生涯学習環境の整備」の主要施策を推進している。前者には、「ライフステージに応じた学習機会の提供」、「自己啓発のためのバランスのとれた各種講座の教室の提供」「公民館活動の活性化と地域住民の学習活動への参画」「人権教育の推進」の4つの主要事業が、後者としては「生涯学習情報提供の充実」、「社会教育団体等への支援と活動の活性化」、「地域人材を活用した学習内容の充実」、「図書館や博物館など、文化施設を有効活用した学習活動の推進」「社会教育施設の適正配置と老朽化に伴う施設整備の在り方見直し」の5つの主要事業が掲げられている。

「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも」学ぶことができる学習機会の提供」では、高齢者、女性、及び青少年をそれぞれ対象とした学習機会を提供するための多様な講座等が前年度に引き続き展開されている。高評価の講座や参加者が増えている講座もあるが、高齢者大学では減少傾向がみられる。しかし、高齢者の生きがい対策として、事業継続を強く望みたい。

なお今年度の外部評価委員会において、「文化健康講座を他の課と連携し、ニーズに応じて各地区の施設で開催するように広げてはどうか」「公民館まつりの回数を増やす方向で検討してはどうか」という意見があった。

「生涯学習環境の整備」では、「生涯学習情報提供の充実」については、広報は随時適切に行われていると評価する。「社会教育団体等への支援と活動の活性化」については、子ども会育成連合会や婦人会等への助成や支援を展開しているが、企画されできあがった事業や活動を展開しがちであるが、企画の段階からできる限り子供たちに参加させ、子供たちのニーズに応じた内容と方法を工夫することを期待したい。

「地域人材を活用した学習内容の充実」の「通学合宿事業」については、児童の体験不足を補完する上で有効な事業であり、継続を期待するとともに、中学生も参加させ、将来の地域のリーダー育成に繋がることを期待したい。

「図書館や博物館など、文化施設を有効活用した学習活動の推進」「社会教育施設の適正配置と老朽化に伴う施設整備の在り方見直し」については、行財政改革との兼ね合いもあるが、生き甲斐対策の観点から身近な施設活用も検討していただきたい。

＜ 3 ＞ 図書館の整備・充実

図書館の整備・充実施策では、「図書館の利用促進」と「図書館を活用した地域文化活動の促進」の2つの主要施策が展開されている。

図書館の利用促進施策としては、「中央図書館、分館、移動図書館の連携強化」、「ホームページなどの広報活動の充実」「子ども読書活動の推進」の3つの主要事業が展開されている。各図書館の閉館日をずらすなどして、町内図書館が常に開館していることは、利用者にとっては好評であると判断する。さらに、図書館で行う行事をホームページだけでなくフェイスブックに掲載することにより、多くの方に周知できるように努めていると判断する。今後、財政的な面からの統廃合ではなく、町民の読書活動の向上の面を重視し、3館の存続を検討してもらいたい。

また、「図書館を活用した地域文化活動の促進」については、「読書ボランティア等の人材の育成・確保」「ブックスタート事業の推進」「図書館を活用した各種行事」「博物館と連携した文化活動（ギャラリー利用）の推進」が取り組まれている。

いずれも概ね着実に実施されていると判断する。とくに各種事業は、興味のわく身近な内容の取組がなされており、館員の方々の熱心な姿勢が現れていると評価する。今後、3歳児健診での絵本配布を検討してもらいたい。

＜ 4 ＞ 遺跡・文化財・博物館の整備・活用

「町内の文化財の有効活用」、「歴史民俗博物館の事業機能強化」、「遺跡・文化財の整備推進」の3つが主要施策として示されている。いずれも概ね着実に実施されていると判断する。

みやこ町は、多くの文化財を有しており、その資料収集・整理、保存、継承、活用、普及などは重要な事業となる。実際に、みやこ町が掲げている主要事業は多岐にわたる。それらの事業の成果や課題のなかから、特徴的な事項を以下に示す。

① 「博物館資料収集・展示・教育普及事業」については、動的な展示や体験型の展示など、内容や方法の工夫が見られ、子供も大人も楽しめる事業になり評価できる。今後より一層、他地域の博物館と連携し、展示物を借り、魅力のある企画展の開催を期待したい。

② 「ホームページの管理・運営事業」については、町内外に広く情報発信する手段として、専門家等の意見を参考に来館者増を図る方策が必要である。専門業者に依頼することも検討してもらいたい。

＜5＞文化芸術振興活動の推進

ここでの取組として「地域文化を活かした文化振興事業の推進」が主要施策として示されており、「文化協会等による文化・芸術活動の支援」、「文化団体の自主的な運営に向けた取組・活動等の支援」、「伝統文化(遺産)を活かした文化振興事業の実施」が展開されている。

いずれも概ね着実に実施されていると判断する。とりわけ、「伝統文化(遺産)を活かした文化振興事業の実施」については、俳句や絵画・作文等、伝統文化やその遺産・文化資源を活かした文化事業を行い、ジュニア俳句大会、絵画・作文コンクールで、応募人数・句数が多く、意義ある取組であるため、更なる取組の充実を期待したい。

＜6＞ スポーツ・レクリエーションの推進

平成28年度に作成した第2次みやこ町総合計画をスポーツ振興計画と位置づけ、誰でも、いつでも気軽に参加できるスポーツ・レクリエーション活動を推進していくことをスポーツ推進審議会で審議し、「住民主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進」、「競技スポーツの振興」、「既存の体育施設の有効活用と利用促進」、「指導者の育成・発掘」、「運動をすることでの健康づくりへの取組」の5つの主要施策が示されている。以下、特徴的な事項を記載する。

- ① 「スポーツ推進委員等によるニュースポーツの普及・推進」については、今後も継続して放課後クラブや老人ホーム等の団体や施設に積極的に声かけをして、参加を促す取り組みを継続していきたい。
- ② 「アダプテッド・スポーツ の取組」については、障害者を対象としたスポーツはとても大切なことであるので、今後先進地域に学びながら積極的に推進してもらいたい。
- ③ 「オリンピック選手などトップアスリー招へい」については、極めて貴重な機会なので、トップアスリートと町民、児童・生徒が気軽にふれあうような場の継続が望まれる。特に2020東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた多くの取組と連携しながら、アスリートと町民との交流が充実する企画を期待したい。
- ④ 「関係団体との連携」については、他団体と連携し、障害スポーツに携わっている人を多く招聘し、共に競技ができる機会の場を期待したい。

4. 全体所見

これまで主要事業の各取組について評価してきたが、最後に全体所見として2点記しておきたい。

(1) 「成果のある事業の充実」

本外部評価委員会では、平成30年度におけるみやこ町教育委員会の施策や事業については、いずれの項目も概ね着実に実施されていると判断する。いずれの取組も計画的に行われ、検証もしっかりされている点进行评估したい。

顕著に成果をあげている事業として、「小中連携教育の推進」における多様な研修会や出前事業の実施、「基礎学力向上に向けた教育活動の充実」におけるみやこ町教育委員会主催の研修会の実施や町雇用教員の配置、「国際理解教育・英語教育の推進」におけるGTECの実施やALTの小中学校派遣、「自己啓発のためのバランスのとれた各種講座教室の提供」における各種講座の開催は有効な取組であり、今後も成果が大いに期待できる。

また今後大いに期待される事業として、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた各種・多様な事業や交流イベントである。一過性の国際交流にとどまらず町おこしの一環にもなる貴重な機会なので、入念な企画・準備をお願いしたい。

(2) 「みやこ町の強みを活かした誇りと郷土愛の育成」

みやこ町は、著名な文化人を数多く輩出し、貴重な歴史的遺産・文化財に恵まれている。29年度にはユネスコの「世界の記憶」遺産として小笠原文庫「朝鮮通信使資料」が登録された。これらの文化遺産を最大限に活用した学校教育や様々なイベント、事業を展開することは、みやこ町に育ったことへの誇りとみやこ町の素晴らしさを感じ郷土愛を育むこととなる。このことは、町の活性化の重要な柱となると期待される。みやこ町の誇るべき「ひと・もの・こと」の更なる整備と積極的な広報活動や事業展開が切に望まれる。